

製作総指揮：ヴィム・ヴェンダース

監督：ヴィム・ヴェンダース、ミハエル・グラウガー、マイケル・マドセン、
ロバート・レッドフォード、マルグレート・オリン、カリム・アイノズ
(2014年/ドイツ、デンマーク、ノルウェー、オーストリア、フランス、アメリカ、日本/165分/英語/Color/16:9/DCP)
製作・提供：株式会社WOWOW 配給・宣伝：アップリンク

CATHEDRALS
OF CULTURE



自主上映会の
ご案内

もしも 建物が 話せたら

無口なもののこそ雄弁だ

世界の名監督6人が描く、6つのストーリー

Neue Road Movies presents a Neue Road Movie
directed by Wim Wenders, Michael Glawegger, Michael Haneke, Robert Redford, Margreth Olin, Karim Aïnoos
produced by Erwin W. Schmidt, Gian Piero Ringel executive producer Wim Wenders coproduced by Anne Kohnke,
Signe Byrge Sørensen, Tommy Pridalg, Peter Wirthensohn, Maria Ekenhøvd, Charlotte Uza, Laura Michalchyshyn,
Sidney Beaumont, Nobuya Wazaki, Kayo Washio director of stereography Josephine Dorebe
in coproduction with Final Cut for Real, Lotus Film, Mer Film, Les Films d'ici 2, Sundance Productions/RadicalMedia,
WOWOW, Rundfunk Berlin-Brandenburg in collaboration with Arte, ORF Film/Feresehakkommen
with the support of Medienboard Berlin-Brandenburg, Film- und Medienstiftung NRW, Danish Film Institute,
Österreichisches Filminstitut, Norwegian Film Institute, Nordisk Film & TV Fond, Filmstandort Austria,
Aide aux Nouvelles technologies du CNC, Fritzt Ord, Dreyers Fond, MEDIA Programme of the European Union
International sales Cinephil German distribution NFP marketing & distribution



ベルリン・フィルハーモニー
©Wim Wenders



ソーック研究所
©Alex Fels



ハルデン刑務所
©Heide Fuchs



ロシア国立図書館
©Wolfgang Thierl



オスロ・オペラハウス
©Dyker-Meyer



ボンビドゥー・センター
©Ali (Hay) Gökçe

上映日

第一回

11/1(土)

第二回

11/8(土)

17:30 ~ 開場

18:00 ~ 上映開始

20:45 終了

■ 参加費

大人 2000 円 子ども / 学生 1000 円

■ 参加対象

11 歳以上 (小学校 5 年生以上)

■ 参加方法

事前の申し込みをお願いします。

定員に達し次第、受け付けを終了致します。

ご了承ください。

■ お支払い方法

当日、現金のみでお願い致します。

■ 服装 & 持参物

1 階の「ひろま」の床に座って鑑賞しますので、座布団、ヨガマットなどのご持参をお願い致します。

3 時間近い作品のため、リラックスできる温かい服装でお越しください。

■ 留意点

飲み物は、持ち込み可能ですが、密閉できる容器に入れてお持ちください。

お食事、アルコールはご遠慮ください。
上映中の貴重品の取り扱いには自己責任にて管理をお願い致します。

■ 会場

鳥取県立美術館 「ひろま」

〒682-0816 鳥取県倉吉市駄経寺町 2 丁目 3-1 2



ひろま

鳥取県立美術館
TOTTORI PREFECTURAL MUSEUM OF ART

問い合わせ先 林 雅子 mail: primitif.gardin@gmail.com

ヴィム・ヴェンダース製作総指揮！ ヴェンダース、レッドフォードを含む6人の監督が、 思い入れのある建築物の心の声を描き出す、 オムニバス・ドキュメンタリー。

もし建物が話せたら、私たちにどのような言葉を語り掛けるのだろうか。
建物は文化を反映しており、社会を映し出す鏡でもある。
一昔前、欧米ではその街を代表する建物は教会であり、
教会を見ることによってその街の文化も人々の暮らしも垣間見えた。
現代におけるその街を象徴する建物とは？
世界の名監督6人がそれぞれの街で人々と思い出を共有する、
思い出の詰まった文化的建物のストーリーを描き出す。



ヴィム・ヴェンダース
(『セバスチャン・サルガド/地球へのラブレター』)
「ベルリン・フィルハーモニー」(ドイツ・ベルリン)
五角形のホールが印象的な、2013年に50周年を迎えた文化の中心的建物。ヴェンダース監督『ベルリン天使の詩』に登場するポツダム広場に隣接している。

©Donata Wenders 2005



ロバート・レッドフォード
(『リバー・ランズ・スルー・イット』)
「ソーク研究所」(アメリカ)
レッドフォードが11歳の時にかけたポリオの予防接種を開発したソーク研究所。小規模ながらも研究論文の引用率は世界でも1、2を争う。

©Kristina Loggia



マイケル・マドセン
(『100,000年後の安全』)
「ハルデン刑務所」(ノルウェー・ハルデン)
再犯率がヨーロッパで最も低いノルウェー。世界一人的だと言われるこのハルデン刑務所は懲罰よりも更生・社会復帰を目的としている。

©Søren Søkkær Starbird



ベルリン・フィルハーモニー

©Wim Wenders



ソーク研究所

©Alex Falk



ハルデン刑務所

©Heikki Farm



ロシア国立図書館

©Wolfgang Thaler



オスロ・オペラハウス

©Oystein Mamen



ポンピドゥー・センター

©Ali Olcay Gozkaya



ミハエル・グラウガー
(『Whores' Glory』)
「ロシア国立図書館」(ロシア・サンクトペテルブルク)
本作が遺作となったグラウガー監督は、ロシアで発行された印刷物はなんでもそろうロシア最古の公共図書館を、読書家だった両親への思いとともに綴る。

©Michael Glawogger



マルグレート・オリン
(『Nowhere Home』)
「オスロ・オペラハウス」(ノルウェー・オスロ)
監督の地元ノルウェー・オスロの海面からそそり立つ氷山を思わせるデザイン、建物の屋根まで歩いて登る事が出来るオスロ・オペラハウスはスノヘッタ設計で2008年に完成した。

©Speranza Film



カリム・アイノズ
(『Praia Do Futuro』)
「ポンピドゥー・センター」(フランス・パリ)
カリム・アイノズが17歳の時に移り住んだパリで、現代芸術を後押しした大統領ジョルジュ・ボンピドゥーが発案した総合文化施設。

©Anna Luiza Müller

建物は、あなたが考えている以上に世界に影響を与えている。

外から見れば私は小さいが、開かれた社会という理想郷が私の中に実現している
(ベルリン・フィルハーモニー/ヴィム・ヴェンダース)

本作はWOWOW「国際共同制作プロジェクト」として制作されました
各国のメディアやクリエイターと共同で番組を企画・制作するWOWOWの新たな試みが「国際共同制作プロジェクト」です。国際性豊かなオリジナル番組づくりを目指して、WOWOWの挑戦は続きます。
<http://www.wowow.co.jp/documentary/original/international/>

上映日

第一回

11/1(土)

第二回

11/8(土)

17:30 ~ 開場
18:00 ~ 上映開始
20:45 終了

■会場

鳥取県立美術館 「ひろま」



■主催者の気持ち

言葉なきものへの気持ちになってみたらどうだろうかと、
イメージと思いやりを膨らみたいなと選びました。そう
いうが目線で日々を見ることが出来たら楽しい発見が増える
ことを期待して。